



音楽メルマガ【コン・フォーコ】

12月号

鳴らない名器～音楽雑貨専門店プレリユード

■もくじ■

- ♪ド♪ 完売御礼！ 九谷焼チェロ皿 1st ロット ～2週間で完売したチェロ皿再入荷のお知らせ～
- ♪レ♪ 来日オーケストラの横顔的感想～第2回 by DORADORA ～今秋来日したオーケストラ達です～
- ♪ミ♪ クリスマスイブに・・・シャンパングラスクラス登場 ～ヴァイオリンやトランペットの彫刻入り～
- ♪ファ♪ 第九の季節 ～大晦日までの第九演奏会のスケジュールです～
- ♪ソ♪ シルバーボウ タイバー (弦楽器) ～弓をモチーフにしたタイピンです～

みなさまこんにちは。
音楽雑貨専門店♪プレリユード店長の藤岡です。

今年ももう12月半ば、年末もすぐそこに迫ってきました。街もクリスマス気分一色で、第九をよく耳にする季節になりました。

なにか気持ちが高揚する時節ですが、風邪を引きやすい時期でもあります。みなさまくれぐれもご自愛くださいませ。

では、今月の《コン・フォーコ》をお届けします。

♪ド♪ 完売御礼！ 九谷焼チェロ皿 1st ロット
～2週間で完売したチェロ皿再入荷のお知らせ～



リリースして2週間で完売してしまったチェロ皿ですが、欠品中もご予約を戴くほどの人気でしたが、ようやく2回目のロットが完成しました。

鉄絵で表現した【鉄】と、緑色の呉須をつかった【染付】の2種類、釉薬の仕上げもそれぞれ変えてあり、シンプルな中にも味わい深い魅力があります。

2種類セットでご愛用されても楽しいです。



♪ ♪ 来日オーケストラの横顔的感想～第2回
by DORADORA

9月から3ヶ月間多忙といつつ、実はコンサートだけはしっかりたくさん聴きに行っていました。しかも、この秋はどのオケ・オペラもとてもいい演奏が多く、どれを書いていいか分からなくなってしまったので、今回は聴きに行ったすべての海外オケ・オペラの簡単な感想を書いてみたいと思います。

＜オーケストラ＞



トスカニーニ交響楽団 L・マゼール指揮、Vn 五嶋龍 9月12日(水)サントリーホール

曲目 ロッシーニ歌劇「絹のはしご」序曲、パガニーニ Vn 協奏曲第1番、レスピーギ「ローマの噴水」、「ローマの松」

楽団創設数年(ファーストコンサートは2002年6月)のオケとは思えないくらいの高い技術で、イタリアのオケなのでもう少し個人個人が勝手気ままに演奏するのかと思いきや、結構まとまりが取れていて、スマートな音を出すオケでした。前回来日時チケット価格がS席1万円代ではなかったと思いますが、今回は五嶋龍効果と合わせてS席2万5千円まで高騰しました。でも、それに見合ったいい演奏が聴けたと思います。

特に、ローマの松のアップピア街道(最終楽章)は迫力があって圧巻でした。あと、五嶋龍についてですが、Vnの音自体はすっきりとした比較的明るい音色で、音の抜けが良く、技術レベルも高いなと思いました。あと、少し生意気っぽいところがあると思います

が、20才前にしてあのステージ度胸のよさには感心させられました。



ヴッパータール交響楽団 上岡敏之指揮・ピアノ
10月10日(水)東京オペラシティ

曲目 R・シュトラウス「ドン・ファン」、モーツァルトピアノ協奏曲第21番、ベートーヴェン交響曲第5番「運命」

批評家の宇野功芳氏が絶賛していたので、聴きに行ってみました。オケはドイツのオケらしく力強く濃厚な響きで、粗っぽさはありますがなかなか迫力はありました。ただ、上岡氏については、特に絶賛されているほどの感銘は受けなかったというのが理屈抜きで、正直な感想です。でも、チケットがS席でも9千円を考えるととてもお得な演奏会であったことは間違いありません。



ベルリン・シュターツカペレ D・バレンボイム指揮
10月12日(金)サントリーホール

曲目 マーラー交響曲第9番

2年半前に聴いたときより音が国際化してきたというのか、さらに垢抜けてきていて、旧東独のオケ特有の渋さ、重厚さというのが影を潜めた感じがしました。弦楽器の厚み、うねりなどは依然として素晴らしく、金管の音の強さ、音色の明るさが以前より増したように感じられました(個人的にはあまり好ましくありま

せん)。

オケの技術レベルはもちろん高く、バレンボイムとの呼吸も合っているので素晴らしい演奏だとは思いましたが、自分の中では今ひとつ強い感動を味わえませんでした。自分自身があまり普段マーラー9番を聴かないし、特に好きな曲ではないということは原因のひとつだとは思いますが、ただ、あと一歩何か足りないという感じを受けてしまいました。

ミュンヘン・フィル C・ティーレマン指揮 11月3、4日(土、日) サントリーホール

曲目 R・シュトラウス「ドン・ファン」「死と変容」、ブラームス交響曲第1番(3日) ブルックナー交響曲第5番(4日)

今年聴いた中で、文句なく一番感動した演奏でした。というか、今までの人生の中でも3本の指に入るくらい感動した演奏でした。オケ自体は、音色は金管の柔剛自在の響きに特に強い印象を受けたが、木管もそれに負けないくらい強い響きを持っていたし、弦楽器も重厚で緻密なアンサンブルをしていたという印象を受けました。

でも、音色・技術自体は正直、自分の中ではウィーンフィル、バイエルン放響、ドレスデンシュターツカペレがベスト3だと思っています(ベルリンフィルはラトルがやめて、ティーレマンになれば一番かも)。しかし、指揮者を含めた演奏という点で自分が心から感動した演奏はこれらのオケの演奏でないものが結構多いのです。



今回もそうで、指揮者やオケの力量だけでなく、両者の曲への思い入れ・愛情（大切に思う気持ち）の強さというのが、自分が本当に感動できる演奏に出会うためには非常に重要なポイントではないかということに改めて感じさせられたような気がしました（詳しい感想はバイエルン放響とのブラームス、ブルックナー演奏の比較を後日改めて寄稿する予定です）。



パリ管弦楽団C・エッセンバッハ指揮、Vn 諏訪内晶子 11月8日(木)サントリーホール
曲目 チャイコフスキー Vn 協奏曲、ラヴェル「ラ・ヴァルス」、ストラヴィンスキー バレエ「火の鳥」組曲 (1919年版)、アンコール ラヴェル「ボレロ」

やはり諏訪内さんのVnはすばらしい。このために聴きに行ったようなものです。今回もチャイコフスキーのロマンティックな音楽を透明感のある音色で切々と表現してもらいました。一方オケはというと、2年半前にM・プラッソン指揮のパリ管の音を聞いた時にはいかにもフランス・パリらしい香りが会場いっぱいに広がったような印象を受けたのですが、今回はドイツ人指揮者になっ

てずいぶんパリ管らしさがなりを潜めた感じがしました。
悪いわけではないのですが、フランスらしい華麗で軽妙な感じの音は普段あまり好きでない私が少し残念に感じたくらいですから、パリ管らしい音を愛する人にはつまらなかったのではと感じました。

ただ、アンコールでパリ管のボレロを聴けたのは非常においしかったと思います。ボレロが奏者の体にしみ込んでいる感じで、途中指揮者が一時的に棒を振らずにオケに演奏を託した時も、奏者各自の感覚で素晴らしい演奏をしていました。

ドレスデンシュターツカペレ F・ルイジ指揮、ソプラノ C・ニールンド、メゾ・ソプラノ A・ヴォン・ドゥング 11月12日(月) サントリーホール
曲目 マーラー交響曲第2番「復活」

ドレスデンの音は大好きです。マーラー交響曲第2番も大好きで、演奏会前にたくさんCDを聴いて楽しみにして行きました。でも、つまらない演奏会でした。

確かに、オケも指揮者も一流で、実際の演奏もレベルは高い。演奏後の拍手だってかなりのものがありました。でも、私にはルイジはまだこのオケの魅力を十分に掴めていないし、引き出せていないように感じました。また、このオケはマーラーに対する思い入れがないというか、大事にしていないのかなという印象も受けました。自分にとっては今回の演奏はうまくても、感動できない演奏の典型だったような気がして非常に残念でした。



バイエルン放送交響楽団 M・ヤンソンス指揮、Vn S・
チャン 11月19、23日(月、金) サントリーホール
曲目 R・シュトラウス「ツアラストラはかく語りき」ブラームス交
響曲第1番(19日)ブルッフ Vn協奏曲、ブルックナー交響曲第7番
(23日)

このオケと指揮者も2年前にはじめて聴きに行った
とき、あまりの音の美しさに公演後にもう一回チケッ
トを購入し、続けて聴きに行ったほどのお気に入りです。
今回もその音の美しさにやはり感動しました。

ただ、感動したのは「オケの音」にです。ヤンソン
スはそのオケの特質を活かして、無理に自分のスタイル
に持ち込もうとはせず、オケが気持ちよく演奏でき
る指揮者ではないかと感じます。それはそれでとても
素晴らしいことだと思いますが、逆に言えば、指揮者
としての個性を抑えてしまい、いまいち曲そのものに
感動できなくしてしまっているのではと今回感じまし
た。

以前コンサート会場などで「ヤンソンスは無難なん
だけど、それだけなんだよね」とか「可も不可もない
指揮者だ」というような会話を観客がしていたのを何
度か耳にしたことがあります。その通りかも、と前か
らCDなどを聴いていて感じたことはありました。特
に、今回のブルックナーではまさにその部分がもろに
出た演奏だったように思います。最初から最後まで平
坦なブルックナーでグッとくるものが何もありません
でした。

もちろん、演奏はハイレベルで、そこらのオケの演
奏と比較すれば素晴らしいのは言うまでもありません
が、ちょっと残念な演奏でした。指揮者にもオケにも、
もっともっと研究してから挑んで欲しい曲だと思いま
す。



チェコ・フィル Z・マカル指揮、アルト D・ペツ
コヴァ 11月26日(月) サントリーホール
曲目 マーラー交響曲第3番

11月の締めくくりは今回のチェコフィルのマー
ラーでした。以前、マカル・チェコフィルの「ドヴォ
ルザーク、新世界」を聴きに行ったとき、少し期待し

ていた音色より薄く、軽いというか、明るい音色で、
もっと素朴で柔らかい音色だったら良いのにと感じた
ので、あまり期待していませんでした。

しかし、今回はさにあらず。特に、管楽器の柔らか
で力強い響きに感動し、打楽器も一つ一つの音が丸み

を帯びていて(恥ずか
しながら今まで打楽器
の音まで意識・注目が
いったことがあまりあ
りませんでした)、なん
とも言えないマーラー
の音楽を造り出して
いました。また、弦楽器
も第6楽章のアダージョ
では弱音の中で切々と
歌う表情になんとも言
えない感動を覚えまし
た。チェコフィルとマ
カルがマーラーという
作曲家を宝物のように
思っていて、とても大
事に演奏しているとい

う感じです。

決して派手な演奏ではないと思いますが、マーラー
の色彩感のある艶っぽい表情がひそかに散りばめられ
ていて、一音一音に込められた思いというものが伝
わってくるような感動の演奏でした。指揮者とオケが
揃うとこんなに感動できるのだと感じました。

<オペラ>

チューリッヒ歌劇場 F・ウェルザー＝メスト指揮
ヴェルディ「椿姫」 9月5日(水) オーチャードホール
ヴィオレッタ E・メイ、ジョルジョ・ジェルモン L・ヌッチ、アルフレード・ジェルモン P・ベチャーラほか

この上演で一番良かった印象はエヴァ・メイのヴィ

オレッタを聴けたことでした。とにかく、歌、演技、容姿と三拍子そろっていて、変に凝った演出がなかったので、エヴァ・メイのヴィオレッタそのものを十分に堪能できました。歌は、やわらかい声で、繊細な表現が非常にうまく、ヴィオレッタの喜び、悲しみ、苦しみなどが声を通じて伝わってきました。また、頭からつま先まで神経の通った演技で聴衆を魅了していたと思います(演技ができる歌手はとて少なく、歌、演技と揃っているソプラノ歌手は他にB・フリットーリ位しか思い浮かびません)。

あと、オケですが、やはりイタリアのオペラハウスのオケよりはスマートにまとまっていて、技術レベルも高く、うまく歌手をサポートする感じで、W＝メストともども、過不足なくとても聴きやすい感じの演奏でした(よく歌手の邪魔をするオケ・指揮者がいます)。

ベルリン国立歌劇場 D・バレンボイム指揮
モーツァルト「ドン・ジョバンニ」 10月2日(火)
東京文化会館

ドン・ジョバンニ P・マッティ、ドンナ・アンナ A・サムイル、ドンナ・エルヴィーラ A・ダッシュ、レポレロ H・M＝ブラッハマンほか

シェーンベルグ「モーゼとアロン」 10月15日(月)
東京文化会館

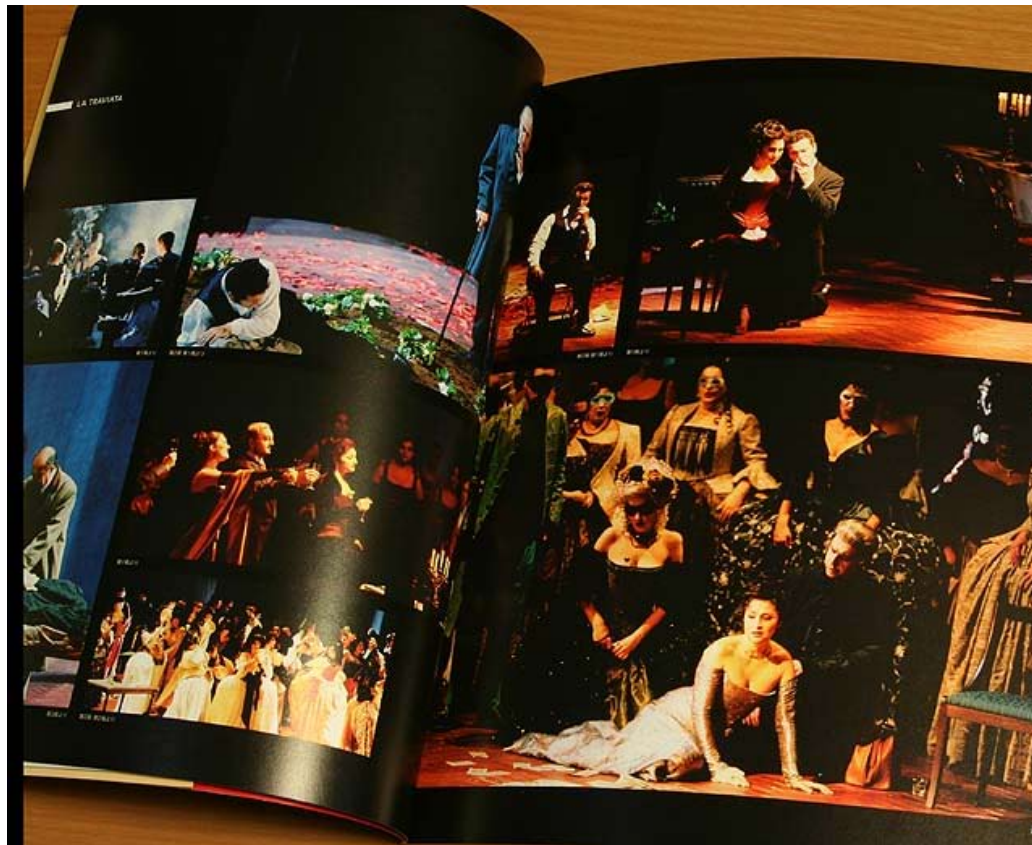
モーゼ S・フォーゲル、アロン T・モーザーほか

ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」 10月17日(水)
NHKホール

トリスタン C・フランツ、イゾルデ W・マイアー、マルケ王 R・パペほか

NBS(財団法人日本舞台芸術振興会)の主催するオペラはいつもオケ、指揮者、歌手ともに質が高く、他のところが主催する公演よりいい公演に出会える確率が高いように思います。

今回も指揮者と歌手が抜群でした。オケは後で述べるドレスデンにはやはり音色も技術も及ばないとは思いますが、バレンボイムの指揮と各公演の高レベルの歌手がそれを補って余りある活躍をしていたと思う(もちろんオケだって普通の歌劇場よりは断然レベルは高いです)。また、今回は演出による自己主張がさほど強くなかったので、オペラ通の人には物足りなかったかもしれないですが、私には演出にあまり歌手が邪魔されずに歌えてよかった(トリスタンでは歌い



にくい演出がかなりあったと感じましたが) と思いません。

ワーグナーに関してはかなり大きな感動を味わえた名演でしたので、後日改めてドレスデン国立歌劇場のワーグナー公演と比較したものを寄稿する予定です。他の演目についても、とにかくバレンボイムによるオケの推進力が素晴らしく、モーツァルトもシェーンベルグも非常に楽しく聴けました。

特に、シェーンベルグは事前のCDでは、曲があまり好きでなく聴くのに苦痛を感じるくらいだったのですが、それでもバレンボイムの演奏の素晴らしさが伝わり、聴いていてどんどん引き込まれるような演奏でした。もう少し自分が曲を理解していればもっと何倍も楽しめただろうと思います。

ドレスデン歌劇場 準・メルクル指揮

ワーグナー 「タンホイザー」 11月17日(土)

東京文化会館

タンホイザー R・ギャンピル、エリザベト C・ニールンド、ヴォルフラム アラン・タイトス、ヴェーヌス E・ヘルリツィウス

公演前月になって、指揮者がルイジからメルクルに変更された影響かどうかはわかりませんが、今回のメルクルの演奏はかなり安全運転的な演奏だったように感じました。変にこねくり回すよりはずっと良いと思いますが、せっかくのドレスデンのワーグナーなのに、26年振りなのに、ちょっと物足りないと感じた人は

私一人ではなかったのではと思います。

でも、滋味あふれる燦し銀ドレスデンシュターツカペレの演奏で、ワーグナーのオペラを生で日本に居ながらにして聴けるというのはなんとも幸せなことだなと感じます。バレンボイムのワーグナーを聴いた後だったので、歌手陣にしろ、オケにしろ、なかなか評価は厳しくなっていますが、歌手陣の中では、出番は少ないですがヴェーヌスのヘルリツィウスが妖艶な雰囲気と声で存在感を示していました。

なお、来月に寄稿する予定のベルリン歌劇場のワーグナー「トリスタンとイゾルデ」の感想の中でももう少し感想を述べる予定です。

以上、とりとめもなく感想を書きましたが、今回紹介したコンサートは厳しいコメントもありますが、どのコンサートも相応にいい演奏を聴けたことは確かです。チケット代がもったいないと感じてしまうような演奏会は一つもなかったですし、むしろみな素晴らしい演奏会でした。ただ、期待の大きかったドレスデンやバイエルンで期待したとおりにいかなかったので厳しいコメントになったのです。また、筆者個人の主観性が非常に強い感想ですので、読者の皆さんにはこんな聴き方をする人もいるのだなくらいに考えていただけるとありがたいです。

さて、個人的には今秋の秀逸の演奏はオケではミュンヘンフィル、オペラではベルリン国立歌劇場の「トリスタンとイゾルデ」が群を抜いていたように感じまし

た。大きな感動を味わえたこの2公演を中心に、後日改めてもう少し詳しい感想を寄稿したいと思います。

【DORADORA 氏のプロフィール】

アマチュアファゴット演奏キャリア約10年。うち4年は店長とともに演奏。ここ3年間、オペラを含めたクラシックコンサートに年平均40回程度足を運んでいる。数多の演奏を体感した上で、独自の切り口による感想は、楽しくユーモラスで好評を博す。

しかし、以前は多忙を極め年数回程度のコンサート通いがやっとだったとか。

♪ ミ ♪ クリスマスイブに・・・

シャンパングラスクラス登場

～ ヴァイオリンやトランペットの彫刻入り ～

トランペットから沸き上がる楽譜を彫刻したワイングラスやシャンパングラスが、ナイトキャップを演出します。

お酒に合わせてグラスタイプをお選び下さい。イブの演出にも最適です。



♪ファ♪ 第九の季節

～大晦日までの第九演奏会のスケジュールです～



第九といえ

ベートーヴェン。

交響曲を9曲以上書いたのは彼だけではないのに、第九と言うだけで他の曲と間違われることはありません。そんな第九が、日本の年末に演奏されるようになったいきさつは諸説あるようですが、いずれもずいぶん前のことのようにです。

でも理由はどうあれ、華やかでいて荘厳なこの曲は、今年一年の感謝や来るべき新年に希望を託すのにととても相応しい名曲だからこそ、全国的に年末の演奏会が定着しているのでしょう。

今日はプロオーケストラの第九演奏会から情報を抜粋してみました。一部を抜き出しただけでもこんなに あるなんて、日本人は第九好きなんですね！

| オーケストラ名称 | 都市名 | 日付 | 開演時間 | 会場 | 指揮 |
|---------------------|------|-------------|-------|---------------------|-------------|
| 札幌交響楽団 | 札幌市 | 12/15 (Sat) | 15:00 | 札幌コンサートホールkitara | 高関 健 |
| 山形交響楽団 | | | | | |
| 仙台フィルハーモニー管弦楽団 | 仙台市 | 12/20 (Thu) | 19:00 | 宮城県民会館 | 山下 一史 |
| 群馬交響楽団 | 佐野市 | 12/16 (Sun) | 14:00 | 佐野市民文化会館 | 工藤 俊幸 |
| 群馬交響楽団 | 足利市 | 12/23 (Sun) | 14:00 | 足利市民会館 | 高関 健 |
| 東京都交響楽団 | 豊島区 | 12/24 (Mon) | 14:00 | 東京芸術劇場 | エリアフ インバル |
| 東京都交響楽団 | 台東区 | 12/25 (Tue) | 19:00 | 東京文化会館 | エリアフ インバル |
| 東京都交響楽団 | 港区 | 12/26 (Wed) | 19:00 | サントリーホール | エリアフ インバル |
| 東京交響楽団 | 豊島区 | 12/25 (Tue) | 18:00 | 東京芸術劇場 | 大友直人 |
| 東京交響楽団 | 港区 | 12/28 (Fri) | 19:00 | サントリーホール | 秋山和慶 |
| NHK交響楽団 | 渋谷区 | 12/23 (Sun) | 15:00 | NHKホール | アンドリュウ リットン |
| NHK交響楽団 | 渋谷区 | 12/24 (Mon) | 15:00 | NHKホール | アンドリュウ リットン |
| NHK交響楽団 | 渋谷区 | 12/26 (Wed) | 19:00 | NHKホール | アンドリュウ リットン |
| NHK交響楽団 | 渋谷区 | 12/27 (Thu) | 19:00 | NHKホール | アンドリュウ リットン |
| 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 | 台東区 | 12/27 (Thu) | 19:30 | 東京文化会館 | 飯守泰次郎 |
| 東京フィルハーモニー交響楽団 | 新宿区 | 12/21 (Fri) | 19:00 | 東京オペラシティ | 尾高 忠明 |
| 東京フィルハーモニー交響楽団 | 港区 | 12/22 (Sat) | 14:00 | サントリーホール | 尾高 忠明 |
| 東京フィルハーモニー交響楽団 | 渋谷区 | 12/24 (Mon) | 15:00 | Bunkamura オーチャードホール | 尾高 忠明 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 豊島区 | 12/16 (Sun) | 14:30 | 東京芸術劇場 | 沼尻 竜典 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 港区 | 12/21 (Fri) | 19:00 | サントリーホール | 沼尻 竜典 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 横浜市 | 12/22 (Sat) | 18:00 | 横浜みなとみらいホール | 沼尻 竜典 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 豊島区 | 12/23 (Sun) | 14:30 | 東京芸術劇場 | 沼尻 竜典 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 港区 | 12/27 (Thu) | 19:00 | サントリーホール | 小林 研一郎 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 横浜市 | 12/28 (Fri) | 19:00 | 横浜みなとみらいホール | 小林 研一郎 |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 豊島区 | 12/29 (Sat) | 14:30 | 東京芸術劇場 | 小林 研一郎 |
| 新日本フィルハーモニー交響楽団 | 港区 | 12/22 (Sat) | 19:30 | サントリーホール | ハインリヒ・シフ |
| 新日本フィルハーモニー交響楽団 | 渋谷区 | 12/23 (Sun) | 15:00 | Bunkamura オーチャードホール | ハインリヒ・シフ |
| 新日本フィルハーモニー交響楽団 | 墨田区 | 12/24 (Mon) | 15:00 | すみだトリフォニーホール | ハインリヒ・シフ |
| 読売日本交響楽団 | 豊島区 | 12/22 (Sat) | 14:00 | 東京芸術劇場 | 下野 竜也 |
| 読売日本交響楽団 | 横浜市 | 12/23 (Sun) | 14:00 | 横浜みなとみらいホール | 下野 竜也 |
| 読売日本交響楽団 | 港区 | 12/25 (Tue) | 19:00 | サントリーホール | 下野 竜也 |
| 読売日本交響楽団 | 豊島区 | 12/26 (Wed) | 19:00 | 東京芸術劇場 | 下野 竜也 |
| 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 | 鎌倉市 | 12/16 (Sun) | 15:00 | 鎌倉芸術館 | 現田 茂夫 |
| 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 | 相模原市 | 12/19 (Wed) | 19:00 | グリーンホール相模大野 | 飯守泰次郎 |
| 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 | 横浜市 | 12/22 (Sat) | 17:00 | 神奈川県民ホール | 現田 茂夫 |
| 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 | 南足柄市 | 12/24 (Mon) | 14:00 | 南足柄市文化会館 | 現田 茂夫 |
| オーケストラアンサンブル金沢 | | | | | |
| 名古屋フィルハーモニー交響楽団 | 名古屋市 | 12/22 (Sat) | 16:00 | 名古屋市民会館 | 小林 研一郎 |
| 関西フィルハーモニー管弦楽団 | 大阪市 | 12/16 (Sun) | 15:00 | ザ・シンフォニーホール | 飯守泰次郎 |
| 大阪フィルハーモニー交響楽団 | 神戸市 | 12/23 (Sun) | 16:00 | 神戸国際会館こくさいホール | 山下 一史 |
| 大阪センチュリー交響楽団 | 大阪市 | 12/27 (Thu) | 19:00 | ザ・シンフォニーホール | 佐渡裕 |
| 広島交響楽団 | 広島市 | 12/16 (Sun) | 15:00 | 広島サンプラザ | 山下 一史 |
| 九州交響楽団 | 福岡市 | 12/23 (Sun) | 15:00 | 福岡サンパレス | 広上 淳一 |

♪ ソ ♪ SV925 ボウ タイバー (弦楽器)
～ 弓をモチーフにしたタイピンです ～



弦楽器奏者の方々の想いに応えて、ビジネスシーンにも芸術と文化の薫りをもたらす弓をモチーフにしたタイバー (タイピン) です。
楽器を奏でる方が身につけてこそ、一層輝く逸品、シルバー製です。

♪ 編集後記 ♪

最後までご覧いただき、ありがとうございました。
よいクリスマスと新年をお迎え下さい。

■本メルマガについてのご意見・ご要望は次のメールアドレスまで
お願いします。

con_fuoco@prelude.co.jp

■当ウェブショップについてのお問合せ先
webshop@prelude.co.jp

音楽雑貨専門店♪プレリュード
株式会社プレリュード

〒 223-0052

神奈川県横浜市港北区綱島東 3-11-4-102

phone: 045-479-8041 fax: 045-479-8042

e-mail: webshop@prelude.co.jp

URL: <http://www.prelude.co.jp/>

